

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

6月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 16件（前月比0.1、前年比0.3）でした。1月をピークとして連続的に減少しています。例年並みに推移しているようです。

小児科定点

（全体傾向）

4,561件（前月比1.19、前年比1.17）であり、手足口病1,736件（前月比2.5、前年比1.6）と感染性胃腸炎1,242件（前月比0.8、前年比0.7）が大きく占めています。伝染性紅斑84件（前月比0.8、前年比21.0）は例年より明らかに高い値で推移しており、注意が必要です。
手足口病1,736件（前月比2.5、前年比1.6）とヘルパンギーナ550件（前月比2.8、前年比4.1）は連続して増加してきており、今後の発生動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : RSウイルス感染症7件（前月比0.1、前年比0.3）であり、3月より連続して減少しています。昨年より低い値となっています。
2. 咽頭結膜熱 : 咽頭結膜熱102件（前月比0.9、前年比1.3）でした。前月比は0.9であり大きな変化はありません。例年並みで推移しているようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : A群溶連菌咽頭炎404件（前月比0.9、前年比1.1）でした。前月比、前年比とも大きな変化はありません。例年並みで推移しているようです。宇城(13.0)、有明(12.4)、菊池(12.0)が多くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 感染性胃腸炎1,242件（前月比0.8、前年比0.7）でした。前年より低い値で推移しています。山鹿(53.5)、有明(48.4)、菊池(45.2)が高くなっています。
5. 水痘 : 水痘46件（前月比0.6、前年比1.1）でした。前月比は0.6と低下していますが、前年比1.1であり、昨年とは大きな変化がなく推移しています。天草(3.5)が高くなっています。
6. 手足口病 : 手足口病1,736件（前月比2.5、前年比1.6）でした。2月から連続して増加しています。前年比は1.6であり、前年より高い値で推移しています。夏季に向けさらに増加する可能性が高く、今後の発生動向に注意が必要です。
7. 伝染性紅斑 : 伝染性紅斑84件（前月比0.8、前年比21.0）でした。前年比21.0であり、例年より著しく高い値で推移しています。昨年の11月から連続して増加していましたが、6月は減少に転じました。引き続き、今後の発生動向に注意が必要です。有明(6.2)が高くなっています。
8. 突発性発疹 : 突発性発疹症133件（前月比0.7、前年比0.8）。前月比、前年比とも大きな変化はなく、例年と同様に推移しているようです。
9. ヘルパンギーナ : ヘルパンギーナ550件（前月比2.8、前年比4.1）でした。2月より連続して増加しています。前年比は4.1であり、前年より高い値で推移しています。夏季に向けさらに増加する可能性が高いため、今後の発生動向に注意が必要です。
10. 流行性耳下腺炎 : 流行性耳下腺炎51件（前月比3.0、前年比1.6）でした。5月までは大きな変化がなく推移していましたが、前月比は3.0と増加しています。天草(3.5)、有明(3.0)が高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 66 件、前月比 0.8、前年同月 0.9 と減少しています。熊本 48 件、菊池 4 件、八代 1 件、有明 13 件と、熊本以外では有明からの報告が目立っています。年齢別では 20～69 歳に多発していますが、1～7 歳にも散発しています。各施設でプールが始まっていますので、注意が必要です。

STD 定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：
報告数 44 件(前月比 0.8、前年同月比 0.7)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に 26 件と多く見られています。年齢別は、男性は 25～29 歳に 8 件と多く、女性は 15～24 歳に 10 件と多く見られています。地区別は、熊本が 35 件と多く、次いで御船、八代に各 3 件、菊池、人吉、宇城に各 1 件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 22 件(前月比 1.6、前年同月比 0.8)で、前月比は増加、前年同月比は減少しています。男女別は、男性に 12 件とやや多く見られています。年齢別は、男性は 25～64 歳と幅広く見られ、女性も 20～69 歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が 12 件と多く、次いで八代 5 件、有明、宇城に各 2 件、菊池 1 件でした。
3. 尖圭コンジローマ：
報告数は 12 件(前月比 1.2、前年同月比 1.0)で、前月比は増加、前年同月比は同数でした。男女別は、男性に 9 件と多く見られています。年齢別は、男性は 15～54 歳とやや幅広く見られ、女性は 20～39 歳に見られています。地区別は、熊本に 10 件と圧倒的に多く、次いで菊池、有明に各 1 件でした。
4. 淋菌感染症：
報告数は 17 件(前月比 1.9、前年同月比 2.1)で、前月比、前年同月比とも大幅に増加しています。男女別では、男性に 15 件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は 15～64 歳と幅広く見られ、女性は 15～19 歳に 1 件、25～29 歳に 1 件見られています。地区別は、熊本 14 件と圧倒的に多く、次いで宇城 3 件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数は 14 件(前月比：0.8、前年同月比：0.7、男女比：11/3)で減少傾向にあります。熊本(10)、人吉地区(2)、阿蘇・有明地区(1)と広範囲に認めます。年齢分布としては 0 歳・40～44 歳(2)、55～59 歳・60～64 歳(1)、70 歳以上(8)を中心に高齢者で集中して多く検出されました。
▼昨年に同様の報告数で推移しています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数は 2 件(前月比：1.0、前年同月比：0.4、男女比：1/1)で低値横向きに推移しています。熊本・有明地区(1)でした。年齢分布としては 55～59 歳・60～64 歳(1)でした。
▼例年より少なめの報告数で推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-）で報告はありませんでした。
▼例年同様に散発的な報告のみになります。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：-、前年同月比：1.0）で、熊本地区(1)でした。年齢分布は65-69歳(1)でした。
▼引き続き例年並みに推移しています。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：0.3、前年同月比：0.3）で減少しています。熊本地区(1)でした。年齢分布は30-34歳(1)でした。
▼例年同様に比べて少なめの報告数で推移しています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は2件（前月比：2.0、前年同月比：2.0）で増加しています。熊本・八代地区(1)でした。年齢分布は5-9歳・30-34歳(1)でした。
▼例年に比べて低値横向き推移をしていますが、今後の増加が懸念されます。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼引き続き報告はありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は9件（前月比：0.3、前年同月比：4.5）で引き続き減少傾向にあります。
熊本地区(9)でした。年齢分布としては0歳(8)、5-9歳(1)でした。
▼引き続き急激な減少傾向にあり、例年並みとなっています。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	13件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	5件
4類感染症	： レジオネラ症	3件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	水痘（入院例）	2件
	破傷風	1件
	梅毒	19件
	百日咳	56件
	風しん	1件